

## 市長記者会見記録

日時：2024年1月4日（木）14時00分～14時16分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：令和6年の年頭にあって

### <内容>

#### 令和6年の年頭にあって

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。初めに、令和6年の年頭に当たりまして、福田市長から御挨拶させていただきます。それでは、市長、よろしくお願ひします。

【市長】 改めまして、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

まず冒頭、能登半島地震において多くの貴い命が失われて、そして今も厳しい状況に置かれている皆様に心からの御冥福と、それからお見舞いの思いを伝えたいと思っています。

今年1年、今年には市制100周年という大きな節目の年でありますので、いつも言っていることでもありますけれども、市民の皆さんと一緒に、いいニュース、明るい話題をいっぱいお伝えできるような、そんな市政をやっていきたいと思いますし、また、この記者会見を通じて、正確で正しい情報が市民の皆さんに伝わるように、私としても皆様からの質問に誠実にお答えしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは以上です。

#### 【市政一般】

#### 令和6年の年頭にあって

【司会】 それでは、市政一般に関する質疑応答に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしくお願ひいたします。

【時事（幹事社）】 それでは、1月の幹事社を務めます時事通信社と申します。よろしくお願ひします。

【市長】 よろしくお願ひします。

【時事（幹事社）】 最初の質問なんですが、今、市長の冒頭の所信でも言及された、今年7月に市制施行100年を迎えるということで、市の抱える施策で産業とか環境対策とか、もしくは少子化、子育てとか、もうちょっと具体的に、市制100年を迎えるに当たって力を入れたいという施策等があれば伺いたいんですが。

【市長】 去年から大きく変化が出てきているところでありませけれども、まさに川崎の産業が大きく転換するタイミングだと思っています。100年続いてきた、何ていいますか、工業都市、炭素でもって栄えた町と言えると思うんですが、これが脱炭素によるものづくりというものに大変革していく、そのスタートの1年になるのではないかなと思っています。

産業面でもそうですし、また、私たちのライフスタイルそのものも大きく変えていかなければならないと思っていまして、その意味では、今年、地域エネルギー会社「川崎未来エナジー」が立ち上がって実際に動き始めますし、再生可能エネルギーを自家消費していくという取組ですとか、あるいは太陽光の設置の条例を含めて、さらに様々な環境分野での先進的な取組が私たちの生活の中に入っていくということでもありますので、脱炭素に、産業面でも、あるいは私たちのライフスタイルという意味でも、脱炭素を急速に進めていく、そんな1年になるというのが、ちょうど市制100周年ということと合致して、川崎にとっての第二創業なのか第三創業なのか分かりませけれども、そういった1年になるのではないかなと思っております。

【時事(幹事社)】 関連で、今、新年度予算の編成作業が大詰めを迎えていると思うんですが、今、市長がおっしゃった脱炭素とか環境対策、産業政策、この辺は今度の新年度予算で大分厚い予算配分、そういう感じになりそうなんですか。

【市長】 その方向づけの話というのは、すごく多くなってくると思います。今年、ハード面での都市計画決定ですとかというのが非常に多い年になります。それこそ50年、100年に一遍のまちづくりというのが市内各地で進められることになりますので、そういう意味では、予算面だけではないですけれども、大きく動く年になるのではないかなと思います。

#### **能登半島地震に関する支援及び市の災害対応について**

【朝日(幹事社)】 引き続きまして、幹事社の朝日新聞でございます。今年もよろしくをお願いします。

【市長】 よろしくをお願いします。

【朝日(幹事社)】 能登地震について、既に援助活動が始まっているんですけれども、今後の支援について、何か、分かっている範囲で教えていただけますでしょうか。

【市長】 もう消防については御案内のとおりだと思います。そして、上下水道局による給水車の派遣というのも、これも既にお伝えしているとおりでありますけれども、昨日、氷見市のほうからペットボトルの水の提供ができないかという依頼を受けましたので、今その準備を進めていまして、午後に出発するべく準備を進めているとこ

るであります。

それから、国のほうから、厚生労働省から保健師の応援派遣要請がございまして、これも要請に対応できるということを、今日の14時とか15時とかに返答期限が来ておりますので、まさにもう返答した段階だと思いますが、石川県能登地方に向けて、保健師等（補記）3名が1チームになりまして、要請期間は1月6日から2月29日ということで、1回の派遣が6泊7日で想定しているそうなので、順次、どういう体制で組んでいくのかということはこれからになりますけれども、それについても要請にお応えしていくということにしております。

それから、もう一つがDHEATというものでございまして、災害時健康危機管理支援チームというものでありまして、医師と保健師、それから管理栄養士等が1つのチーム、5名が1チームになったものでありますけれども、これについても派遣の依頼が来ておりまして、これについても対応可能であるということで、今、準備を進めているところでございます。

それから、今朝、全国都市清掃会議というところがございまして、そこから環境省と共に、能登半島を中心に現地の災害廃棄物の調査に行ってほしいということをおっしゃっておりまして、本日も本市から1名、現地に向かう予定としております。そういったところが新たな動きとなっております。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

新庁舎の完成によって、市長の年頭の幹部職員向けの御挨拶にもあったように、防災対応能力が向上したと思うんですけれども、こういった地震を想定してみて、川崎市として、今後こういった部分の対応力強化を目指していくべきと思われるのでしょうか。

【市長】 本庁舎の機能でやはり大事なところは、受援対応がしっかりできるような造りになっているのも大きな特徴だと思っておりますが、今回の震災でもそうですし、さきの熊本のときもそうですが、どうやって支援を受け入れる体制をいかに早くしっかり体制を整えるかということが、復旧、さらには復興への一番の近道だと思っておりますので、いざとなったときに受援体制をどう構築するかというのが本市にとっても大きな鍵だと。その対応訓練というのは、これまでも上下水道局ですとか各局でやってきておりますけれども、新しいハード、新庁舎をいかにうまく使いこなしていくかという訓練は、これからも、今年もしっかりやっていきたいと思っております。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。各社さん、どうぞ。

【東京】 東京新聞です。今年もよろしく願いいたします。

【市長】 お願いします。

【東京】 関連で、今回の地震は1月1日という、日本の皆さんは昼から飲んでいる方も多かったでしょうし、一番油断しているタイミングだったんじゃないかなとも思うんですけども、先ほど年頭挨拶で、自分事として捉えてというお話もありましたけれども、市長御自身、今回の災害を受けて、改めて御自身の中で考えたときに、こういうところを見直さなきゃいけないなと思われた部分はありましたでしょうか。

【市長】 改めて、やはり連絡体制ですね。情報の共有体制というのは取ってはおりますけれども、そここのところは、これが途切れた場合どうするだろうとか、これが夜間だったら情報収集はもっと難しくなるだろうとか、様々なことを夕方から考えましたけれども、こういったことを少し落ち着いた段階でしっかりと検証して、また生かしていきたいと思っております。

【東京】 東日本のときより外国人旅行者も大分増えてきていて、こういうときにどういうふうに外国人の方に対して支援するかということも課題なのかなとも思うんですけども、改めて、外国人の方への対応も含めて、あと市民の皆さんへ自助共助の部分で呼びかけていきたいことなど、教えていただけますでしょうか。

【市長】 こういった震災が起きると、意識のある方は備蓄などをされる方もいるんですけども、逆に熊本地震以降、いつとき、こういう支援物資は外から届くものだというのを思って、備蓄率が下がるということも本市でも経験しておりますので、やはり自分の命はまず自分たちで守ると。そして、お互いの地域での支え合いというのがすごくキーになると。助かる命を助けるためにも、まず自分自身の自助をしっかりするというところで本当の公助が生きてくるということを、しっかりと私自身も伝えていかなきゃいけないなと思いますし、こういったことも、今年も自治会、町内会の皆さんとの会合というのは何回もあって、こういったところも通じてやっていきたいなと思っております。

【東京】 外国人の部分も、ごめんなさい。

【市長】 ああ、外国人のところというのは、これまでも本市で多言語対応というのはしっかりやってきておりますけれども、どういうふうに、より効果的にというのは、いろんな形で議論していきたいと思っておりますけれども、ただ、基本的なベースはできておりますし、今年、ホームページも新たにリニューアルすることになっておりますので、より見やすい形になるのではないかなと思っております。

【東京】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

【毎日】 毎日新聞です。本年もよろしく願いいたします。

【市長】 お願いします。

【毎日】 現地に派遣されている川崎関係の方々から、現地情勢等について、市長のほうまで何らかの報告なり情勢分析なりというのは届いているのでしょうか。もしあるのであれば可能な範囲で教えていただきたいのと、その中で、川崎的に教訓として、まだ段階が早いのでなかなか難しいと思いますが、教訓的に取り入れられるものの芽というのがもしあるのであれば教えてください。

【市長】 まず、今行っておりますのは、上下水道局で給水車というものが行っておりますけれども、これは病院の給水タンクに水を入れていくという作業に当たっておりますという報告を受けております。幸いにして、それほど遠くない距離のところ水源というか、水道が開通しているところがあるので、そこから給水をして病院のタンクに入れるという業務に当たっていると聞いています。

今、氷見市に行っておりますけれども、ほかの自治体、横浜市さんもそうだと思いますが、横浜市さんもそれぞれのところで給水活動をされているので、適切にされているんだと思いますが、一方で、ペットボトルを要請されているというのは、高齢者施設だとか、そういったところに早く配りたいという思い、ニーズがあると聞いておりますので、こういった細かなところも含めて、しっかりと対応していかなくちゃいけないなということを現在進行形で学んでいるということもございます。

今派遣している氷見市と本市のところでは、かなり、災害によっても違いますし、土地柄、どんな状況になっているかというのは、もう本当に千差万別だと思いますので、一概にこれがというのは言いにくいですが、私たちも災害派遣というのは、かなりいろんな面で繰り返してきておりますので、こういったものを積み重ねて本市の防災対策に生かしていきたいと思っています。

【毎日】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに。

#### **大谷選手からのグローブ寄贈について**

【東京】 話が変わって申し訳ないんですけども、今日、川崎市に大谷翔平選手のグローブが届いたということで、このタイミングで、市長の思いと子供たちへのメッセージをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 そうですね。受け止めは様々だと思いますけれども、こういう災害時においても、例えば駅伝をやっているとか、スポーツでもって元気を、勇気をとかというふうに届けられている部分も私はあるのではないかと考えています。

そういった意味ではこれからも、今回は大谷選手から子供たちへということであり  
ますけれども、年始から非常に厳しいニュースが続いている中で、明るいニュースを  
届けていただいたことに感謝したいと思いますし、子供たちは喜ぶだろうなと思いま  
す。明日、教育委員会のほうから各学校に届けられると聞いていますので、野球もそ  
うですし、スポーツだけでなく、いろんなことに前向きに取り組んでもらいたいと思  
っております。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。

#### 令和6年の年頭にあって

【毎日】 あともう1点いいですか。

【市長】 どうぞ。

【毎日】 細かいといえば細かいんですが、市役所の玄関に、クリスマスのときは恐  
らくクリスマスツリーだったものが、門松ではなくて、何ていうんでしょう、年始の  
飾りがついたものに替わっていて、面白いなと私個人的には思って、知人とかに見せ  
たら、エコでいいんじゃないのみたいな意見もあつたんですけれども、あれはどなた  
のアイデアでどんな意図があるのか、もしあれば教えていただきたいんですが。市長  
が御承知であれば。

【市長】 私もちよっと分からなかったんですけれども、あれを見たとき、僕もちよ  
っと面白いなと思って。不思議な感じもしましたけれども、確かにエコだなと思った  
面と、不思議な感じもしましたし。私は何にも、何ていうか、あっ、というふうに...  
....

【毎日】 特に指示されたとかアイデアを提供したとか、そういうことではないです  
か。

【市長】 ないです、ないです。

【毎日】 分かりました。

【司会】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、本日の記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 今年もよろしく申し上げます。

(以上)

---

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した  
上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

